

令和2年第1回中津川市教育委員会（定例会）議事録

日 時 令和2年1月22日（水） 午後1時30分～

場 所 にぎわいプラザ 4-1 会議室

出席委員 教育長 本多 弘尚
委 員 小栗 仁志 田島 雅子 林 由美 三尾 和樹

事務職員 小関事務局長・小木曾教育次長（兼）学校教育課長・川合事務局次長（兼）教育企画課長（兼）施設計画推進室長・松井文化スポーツ部次長（兼）オリンピック対策室長・小栗施設計画対策官・花田教育研修所長・河合幼児教育課長・西尾発達支援センターつくしんぼ所長（兼）発達支援センターどんぐり所長・太田阿木高等学校事務長・池戸生涯学習スポーツ課長（兼）少年センター所長（兼）勤労青少年ホーム所長・原文化振興課長（兼）市史編さん室長・二村図書館長（兼）蛭川済美図書館長・青木中央公民館長・林鉱物博物館長（兼）東山魁夷心の旅路館長

会議日程 1 開 会
2 前回議事録の承認
3 教 育 長 報 告
4 議 事
5 閉 会

日程	議 事	件 名	結 果
第1	議第1号	令和2年度中津川市教育委員会主要事業について	承 認
第2	議第2号	中津川市スクールバスの管理及び運営に関する規則の一部改正について	承 認
第3	議第3号	中津川市立小中学校管理規則の一部改正について	承 認
第4	議第4号	中津川市教育委員会の附属機関の委員の委嘱について	承 認

■教育長 ただいまから令和２年第１回中津川市教育委員会を開催いたします。

日程第２、前回議事録の承認につきましては、回議といたします。

続きまして、日程第３、教育長報告を行います。前回の教育委員会以降の出席行事等を中心に報告いたします。

１２月２３日は市議会の最終日でした。１月５日は消防出初式に出席しました。１０日は消防職員の意見発表会があり、審査員を務めました。１２日は成人式、１５日は校長会、同日、青年会議所の新年例会に出席をしました。１６日は南幼稚園、坂本幼稚園へ教育長訪問をしました。１８日ははがきコンクールの表彰式に出席しました。２０日は市長選挙の当選証書付与式に出席しました。２１日はＢ＆Ｇサミットが東京でありました。２２日は神坂幼稚園へ教育長訪問をいたしました。

今後の主な予定です。２７日に東濃地区図書館コンクール表彰式があります。中津川市からは蛭川中学校が総合優秀賞をいただくということです。２８日は中津川幼稚園、山口幼稚園へ教育長訪問の予定です。

次に、事務局及び文化スポーツ部からそれぞれ報告をお願いします。

小関事務局長。

■事務局長 前回の教育委員会以降の主な出席行事等について報告します。

１２月１９日、子ども子育て会議に出席しました。２０日には加子母むらづくり協議会から、加子母地区での義務教育学校導入の検討を行う協議会を立ち上げていただきたいという要望が市長へ提出されましたので、同席しました。２３日は市議会本会議の最終日でした。併せて、教育振興の業績により藍綬褒章を受章されました恵峰学園理事長丸山充信様が市長に受章の報告をされました。併せて、新町に建設を計画している複合施設の児童図書コーナーの図書の購入に１５０万を寄付していただきましたのでその席に同席しました。１月１２日は成人の日でしたが、元山口村教育長 外垣重禮（そとがきしげのり）さんが亡くなったので葬儀に参列しました。１５日は校長会がありました。１６日に南幼稚園、坂本幼稚園、本日、午前中には神坂幼稚園の教育長訪問に同行しました。２０日は市長への当選証書付与式がありましたので、出席しました。

今後の予定です。１月２７日に教育評価委員会があります。教育委員会事務局からは、中津川市の未来を担う人材育成事業と保育士等確保対策事業について評価をしていただく予定です。教育委員の皆様、よろしくお願いします。２８日には中津川幼稚園と山口幼稚園の教育長訪問に同行する予定です。３０日に教頭会が予定されています。２月５日に校長会が予定されています。１８日は青少年健全育成推進市民会議地域非行対策部会と安全安心まちづくり推進市民会議いじめ対策部会の合同会議が予定されていますので出席を予定しています。１９日はデンソーテン様か

ら、毎年行なっているチャリティー講演会で集まった寄付金とホームオーディオシステム一式をご寄付いただく予定になっております。チャリティー講演会は、2月16日14時から東美濃ふれあいセンター歌舞伎ホールで、お笑い芸人の千原せいじさんが講演されます。お時間がありましたらご参加いただければと思います。

以上です。

■教育長 松井文化スポーツ部次長。

■文化スポーツ部次長 本日、部長が公務のために出張しておりますので、私が代わってご報告します。

12月23日、丸山充信様から、藍綬褒章受賞を記念して寄付金150万円をいただきました。24日、図書館運営協議会が開催されました。27日、苗木城跡の年間来城者数が15万人を達成したため、記念セレモニーが行なわれました。最終的な年間来城者数は15万792人となりました。前年度の平成30年度は8万7760人で、約70%増で推移しています。1月1日、新春マラソン大会が、福岡を初め各地区で開催されました。5日、消防出初式が開催されました。12日、成人式が開催され、皆様方にもお忙しい中ご出席いただき、ありがとうございました。新成人902名のうち714名、出席率としては80%でした。今年のテーマは「つむぐ」と実行委員会で決定し、力強い二十歳の誓いを述べていただきました。来年は1月10日、十日市に当たりますが、商店街の皆様、関係各位のご意見を伺う中で、1月10日の開催を予定しています。18日、第9回目となるはがきコンクール表彰式が行われました。応募作品は2797通でした。入賞作品を含め応募作品は、1月25日から2月10日まで各地域で展示しますのでご覧ください。19日、清流の国ぎふ2020地歌舞伎勢揃い公演が7月19日までぎふ清流文化プラザで開催されます。この日は県下29の地歌舞伎保存会が幕開けの口上を行いました。中津川市から中津川、加子母の明治座と福岡の常盤座、蛭川の蛭子座、阿木、坂下の6団体が出演しています。21日、第12回B&G全国サミットが、全国の首長・教育長が参加され東京で開催されました。その席上で、現在、中津川市長が副会長ではあったのですが、会長に選任されました。

今後の予定です。1月26日、文化財防火デーに伴う消防署の火災防ぎょ訓練が阿木の長楽寺で行われます。27日、教育評価委員会、31日、第19回岐阜県獅子芝居公演反省会が開催されます。2月16日、郷土かるた競技大会が健康福祉会館で開催されます。

以上です。

■教育長 ただ今の報告につきまして、ご質問等がありましたらお願いします。

ないようですので、議事に入ります。

議事日程第1議第1号「令和2年度中津川市教育委員会主要事業について」提案説明をお願いします。

川合事務局次長。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■教育長 一旦ここで説明を切りまして、教育委員会事務局のところについて、ご意見、ご質問等ありましたら、お願いします。

田島委員。

■田島委員 5ページの施設計画推進室です。推進室がなくなり、教育企画課で担当しているということです。（1）学校規模適正化事業の2つ目も福岡についてのことですか。

■教育長 川合事務局次長。

■事務局次長 福岡以外にも今後、地域の要望があれば行っていきます。付知・神坂地区など引き続き懇談を行なっていきます。総合教育会議の基本施策1に関して、委員さんからもっと積極的にお話をかけるように、コミュニケーションを図りなさいというご指導をいただきましたので、そのことも十分承知しながら進めていきたいと思っています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 はっきり分からなかったので質問しました。全市的にこれを進めていくという表現を書いていただくことと、懇談会だけではなく広報や調査もしていきつつ、もちろん調査しているので懇談できるのだと思うのですが、文言でそう書いていただきたいです。

■教育長 ほかにいかがでしょうか。

小栗委員。

■小栗委員 4ページの教育企画課（9）県統一型校務支援システムです。これは昨年からはまったと思いますが、継続ということで、今年はどんな形で力を入れていくのか、また、昨年どんな形で進んでいったのか教えていただけますか。

■教育長 川合事務局次長。

■事務局次長 これも表現の仕方が悪かったと反省しています。令和元年度は、校務支援システムのソフト、学校で先生方が成績をつけたり、事務的な業務を行うためのパソコンに、県下統一の成績や事務的なものを共通なフォーマットで行うソフトの導入をしました。さらに、現在、児童生徒の情報を入力している最中です。現在、市民の住民情報のような基本データを入力する作業を行っています。具体的な

機能として、学籍管理、出欠管理等々を書いています。メニューがたくさんあり、県下でもまだこれを導入していない市町村がいくつかあります。これが出そろわないと足並みそろった動きができないと思います。中津川市に関しては、令和2年度はメニューをいくつか活用できるように増やしていきたいということで、学校教育課と連携して、教職員の皆さんの研修会を計画しています。

■教育長 小栗委員。

■小栗委員 教員の負担軽減をするための準備段階だと理解しました。確かに、準備をする、前段階の入力などに相当パワーが要るのかなと思います。一步間違えると、システムはいいのだけれども使いこなせない、使いこなすまでの入力が出ていないことにならないよう、元々の目的である先生たちの負担軽減がいち早くできるような今年度にしていただければと思います。

■教育長 そのほか、ご質問、ご意見ありますか。

林委員。

■林委員 5ページ教育企画課の3（1）親の意見の教育現場への反映事業についてです。移動教育委員会を開催して、教育現場に反映させるところまでいつているのかと思います。いろいろな意見は出ていますが、その場その場で意見的なものが出るというばかりでもなく「こんな感じです」みたいなこともあります。ここには反映させたいということですが、実態はどうですか。

■教育長 事務局次長。

■事務局次長 結局、そこをいかに教育現場に反映していくかが、今後の重要な課題として、継続にしています。移動教育委員会に校長先生やPTAの関係者、保護者の方にも参加いただいて、学校・園と保護者の交流はあるかと思いますが、我々教育委員会がそうした現場に赴いて、教育委員会の仕事の内容を伝えながら、現場の意見を取り込むところまでは経験できますが、それを生かし切れていないというのは、確かにひしひしと感じているところです。今後、先月の教育委員会でも委員さんから移動教育委員会に関するご意見を頂戴しましたので、そうしたところをもっと汲み取って、次年度の移動教育委員会に反映できるようにしていければと私は個人的に考えています。やりっ放しにならないようにしていきたいと思っています。

■教育長 林委員。

■林委員 私が出席して感じるのは、保護者の方は「行ってよ、と言われたから出てきたけど何話すの？」というところから始まっています。ここで言った意見が反映されるかもという気持ちでいらっしゃるか、何だか分からないから出席したというのでは、スタートからして気持ちが違うと思います。ただ「何かこうしてくだ

さい」ばかり言ったら、それが聞いてもらえるかもしれないという過度な期待を持たれるのも少し違うと思います。移動教育委員会の最大の目的は「教育委員会が何をしているかを理解していただきたい」というところを前面に押し出して、その話し合いの中で「地域独自の要望や、改善できるところがあれば、また反映していきたいです」程度でいいと思います。「『やってください』を言いに来てください」ということではないと思います。

私が参加して思うのは、こうしてほしいという要望が一番出てくるのは、どんぐりをつくしんぼです。必死な親御さんの気持ちや、大半の人たちが「もっとこうしていただきたい」ということが一番たくさん出てくるのはあの場所だと思います。発達支援センターのところで、継続よりも「もう少し」というのをやっていただきたいと思います。あの方たちは、去年も言いましたけどみたいなのところもありますし、あまりここで言ってもと思われながらも、それでも言いたいという気持ちの方が大半なので。「継続」「継続」というのではなく、発達支援センターでは、たとえばもう少し、お医者様を探して精神科の先生に一回でも多く会っていただけるチャンスを作るとか、いろいろな方法を駆使すればできなくはないと思います。そういうことについて、継続よりも一歩進めていただきたいと思います。

■教育長 川合事務局次長。

■事務局次長 主要事業のいろいろな取り組みに、移動教育委員会で聞き取った意見の中で、こういう事業はできますという内容が書き込めることができればと思います。林委員が言われた発達支援センターのことについて、そうしたものが施策に生かされることがあれば、非常によい取り組みかと思いますので、今後そうしたことも考えながらやっていきたいと思います。

■教育長 そのほかいかがでしょうか。

小栗委員。

■小栗委員 先ほど田島委員から話があった、学校規模適正化について、川合次長からも答弁をいただきましたが、これは令和2年度の主要事業の概要ではありますが、もうちょっと先を見たときには、学校規模適正化は絶対やっていかなければいけないことだと思っています。ずっとそういう話もしてきています。その部分がこの1行だけで終わっているのは非常に寂しいというか、もう少しほかの学校の統廃合・適正化について、前向きな意見交換をしていくことを踏まえた方がいいと思います。内容はよく分かりましたので、ご一考いただければと思います。

■教育長 川合事務局次長。

■事務局次長 次回はここにもっとたくさん主要事業の施策として書けるように頑張りたいと思います。

■教育長 そのほかありますか。

三尾委員。

■三尾委員 全体的に見ると、継続という文字が非常に多いという感があります。中には変更がありますが。継続という意味の中に、発展的な継続ということを含めた継続であってほしいと思います。今年度よりも来年度ということを見たときに、継続で済ますのではなく、たとえば適正化にしても、移動教育委員会にしても、今年度よりも一歩進んだ、漠然と充実を図るということではなく、継続する中で具体的に取り組みをこう変えたいという姿が出てくる継続であっていただきたいと思います。

■教育長 ほかにいかがでしょうか。

小栗委員。

■小栗委員 9ページの学力アッププログラムについて、内容のことではなくて、ネーミングについてです。私も教育委員をさせていただいて、毎回、移動教育委員会で学力アッププログラムの説明をする中で、学力という言葉が皆さんがどう認識しているかをすごく感じます。学力＝勉強と捉えることが一般的なのではないかと。毎回説明の中で、勉強だけでなく学ぶ力ですよと、これは生活習慣も含めてという説明をして、私も理解はしていますが。だったらもっと理解してもらいやすい名前に変えてもいいのではないかという気がしています。私も学力アッププログラムという言葉で聞くと、勉強の向上、家庭での学習時間を持つとかいうふうに錯覚するところがいまだに若干あります。そうではなく、規則正しい生活をするとか、そういうことだということを理解した上で、それをやる保護者が分かりやすいように変えてもいいのではないかと思います。

■教育長 花田教育研修所長。

■教育研修所長 おっしゃるとおりだと思います。ただ、学力を支える、生活基盤を整えていくということは今後ますます重要になっていくと私どもは捉えています。たとえばスマホ、ゲームということで家庭での生活リズムが乱れてしまうという事例、犯罪に巻き込まれていくという事例もたくさん出ています。この取り組みは大事なことだと認識しています。名前については、これまでやってきて、ずいぶん浸透してきているとは感じています。一考の余地はあるかなとは思っております。小栗委員のご意見を参考にさせていただきたいと思います。

■教育長 田島委員。

■田島委員 5ページの生き抜く力を育む学校教育は、変更ということで、さらさ講師A、さらさ講師Bということで、非常に力を入れてくださっています。人員確保も、これだけの人数を入れさせてもらうということを非常にありがたく思ってい

ます。それで、35人学級というのは一中と坂下中だけですか。

■教育長 小木曽教育次長。

■教育次長 二中の3年生でもう実施が決定しています。生徒数が確実にいるということです。坂本中と坂下中は、転校生があった場合とか、転出してしまつて40人を割ってしまった場合に2つに分けます。現状では配置の予定はありません。もしもに備えての予算確保です。

■教育長 田島委員。

■田島委員 6ページ(2)学校司書の件は、8年以上前から9人体制でやっています。最初入れてくださったときは中津川の市立図書館とは何の関係もない状態でしたが、今は非常に濃密な関係で貸し借りもできて、調べ学習もできて、非常にいい進め方ができています。学校司書が9人で回っており、保育園・幼稚園、これからこども園にも行くということで、たったの9人で30＋幼稚園・保育園ということになると、仕事がだんだんできてきている司書たちなので、人数的に足りなくないませんか。

■教育長 小木曽教育次長。

■教育次長 学校現場からは増員をぜひ図ってほしいと。週1、2回ではなく、もう少し落ち着いて図書館にいていただきたいという要望は、校長会からも上がっています。確かに人員増は必要だとは認識していますが、まずは今年度、9名の方の待遇改善を微々たるものですが、図ることができたと思っています。次は増員ですが、司書免許を持っている方、そういう能力のある方は非常に少ないので、予算をいただいても人がいないという可能性が高いと思っています。

戻りますが、林委員からのお話の移動教育委員会は、今日、つくしんぼのOBの方から電話をいただき、名指しで私に話を聞いてほしいという要望でした。今回の移動教育委員会は以前のように要望、要望ということではなかったのですが、その中で私との会話で私を指名していただけたということは、効果があったのかなと思っています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 学校司書の件ですが、待っている子どもたち、学校司書を上手に使える子どもたちが増えてきたということで、こちらの方の応援もしっかりお願いします。

■教育長 ほかにありませんか。

田島委員。

■田島委員 6ページ(5)命の教育の推進についてです。去年もここで申し上げたような気がします。これは何か変更や新しい取り組みがあるのでしょうか。

■教育長 小木曾教育次長。

■教育次長 新しい取り組みというより模索をする時期に入っていると思います。平成18年のあの事件から10年余が経過して、当時立ち上げたメンバーの多くが退職し、それを引き継ぐ者たちが非常に若くなっています。当時小・中から始めたものが今、幼保にも広がり、12カ年にわたって命の教育をやっているわけですし、獣医師さんや保健師さんも含めた大きな組織になって、拡大はしていますが、根っこにある部分、何のためにこれを始めたのかといった部分の意識が、やや薄れつつあるのではないかと。さらに拡大していく、変更していくというよりも、根っこの部分にもう一回立ち返ろう、本当に子どもたちの命を守るためには何が必要なのか、どこに焦点を当てるべきなのかといったことに立ち返り、現有の推進委員の意識も高め、各学校も形だけではなく、本当に思いを全教職員で共有していくための方法を来年度は模索していきたいと考えています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 他人の命を守るのもとても大事なことです。最近では自分で自分の命を絶つことがものすごくたくさん出てきてしまっていて、中津川でも例外ではなくなっています。それがいじめなどだけではなく、自分の人生の悩みの中で自分の命を絶ってしまうことも起きているようです。赤ちゃんを抱っこしたり、小動物の命を大切にしているということだけではなく、自分と関わる人たち、自分の命とどれだけの人が関わるのか、他人の人生も考えながら自分の命を考えていくという形もできると思います。自分で自分を殺めるのが一番悲しいことだし、周りの人たちの人生も変えてしまうので、できれば着目して進めていただきたいと思います。

■教育長 小木曾教育次長。

■教育次長 委員のおっしゃるとおりで、年々自傷行為の案件も非常に増えています。また、家庭環境が複雑化しており、親子関係がうまくいっていないことに起因していたりもします。本年度は、命の教育推進部会としてヘルプの出し方、助けてと誰かに伝える方法や、それを送られたらどう対応したらいいのかという、自分で抱え込むのではなく、仲間や親にヘルプを出す方法に取り組んできました。実態に即したテーマではあったと思いますが、次年度以降も様々な角度から、生きるということとはすべてにつながっておりますので、進路、生き方といったもっと大きなことにつながっていくかとは思いますが、実態に即しながらまた研究していきたいと思っています。

■教育長 ほかによろしいですか。

林委員。

■林委員 小木曾教育次長にお電話が名指しであったということですが、移動教育

委員会でいろいろな意見交換ができて、頼っていいのだとかお話しできるという気持ちを持たれたということは、この会をもった意義があると思って、とてもいい気持ちで聞かせていただきました。それをどうぞしっかり受け止めて、即できることやいろいろなことをスピードアップして取り組んであげていただきたいと思います。

■教育長 田島委員。

■田島委員 研修所にも発達支援センターにも通じることですが、教員の方々の、支援の要る子どもたちに対する研修というのが10ページにあります。支援を要する障がい児に対する研修をしているのは分かるのですが、グレーの子どもたちの扱い方はどうしていますか。今決められていない、もう少しで認定されるだろうというグレーの子どもたち、でも扱いにくいとか親も悩んでいる子どもたちがとてもたくさん出ているという話を聞きますが。

■教育長 花田教育研修所長。

■教育研修所長 おっしゃるとおり、通常学級にもそういった支援を要する児童生徒がたくさん在籍しています。教育支援の相談をしながら、特別支援学級への入級を薦めるということも行なってはいますが、現実にはすべて相談をかけた子どもたちが特別支援学級に入っていくということではありません。ですから、通常学級の中でその子に応じた特別な支援をしていく方向で考えています。たとえば、その子に対しての通常学級における個別の支援計画、指導計画を作成し、関係職員に周知して、指導に生かしていくということを行なっていますし、必要に応じて、支援等の配置をするなどして対応するという場合もあります。

■教育長 田島委員。

■田島委員 たくさんの教員がいて、障がいや支援を要する子たちについてのプロというか、よく分かっている方たちがいるのは分かりました。しかし、たくさんの教員の中で、その人たち以外にある程度の教員生活を送ってきた方々の中には、認識が薄い方もおられるのではないかと私は心配しています。そういうグレーの子たちへの対応の仕方も、全教員というのは非常に難しいとは思いますが、こういう例があるとか、扱いはこうだとかいうのを、できれば研修や指導をしていただけると、少しでもいじめや親の悩みも解消されていくのではないかと思います。いかがでしょうか。

■教育長 花田教育研修所長。

■教育研修所長 たとえば校内であれば特別支援教育コーディネーターという立場の者が学校内研修を開いたりとか、ほぼどの学校も行なっていると思うのですが、週に1回程度は教育支援会議や生徒指導関係の会議でも、特別な支援を要する児童生徒について話題にして、その子に対してどのように対応していくかについて、相

話し、職員会議等で広めるという取り組みは行なっています。

■教育長 そのほかいかがですか。

田島委員。

■田島委員 10ページが一番下の行に運営管理・安全管理とあります。11ページ(3)(オ)運営管理・安全管理とあります。安全管理という言葉が使っているのですが、安全についての見直しをした方がいいのではと思います。この前、保育園を訪問したときに、坂下保育園には4つ入口がありました。園長へ「4つ入口がありますね」と言いまして、「4つもあつたら大変じゃないですか、どこかから何かが侵入したり、反対に子どもたちがそこから出ていく、管理が大変だ」というつもりで言ったのですが、とても誇らしげに「4つもあつて便利です」とおっしゃりました。それと、加子母保育園を訪問したときは、スカートをはいていても飛び越せるくらいの低いフェンスが、開いていました。なぜ開いているのか聞きましたら、冬には凍って開かなくなるからと言われました。5月か6月のことですが、習慣化しているのです。そういった危機管理のなさは、恐ろしいと思いました。加子母は道路沿いです。ひょっと誰かが入ってきて、園児を横抱きにしてどこかへ連れていってしまうことがないことはないです。新しい子ども園も、どう見ても外から入ってくる、中から出て行けるような造りになっています。今の社会情勢は非常に恐ろしいことが起こるようになりましたので、安全管理をもう少し見直すことが大事なような気がするのですが、いかがでしょうか。

■教育長 河合幼児教育課長。

■幼児教育課長 これまで園長任せ、現場任せのところがあつたので、今年度から巡回事務員を入れました。それは現場を見に行つて施設がどうかという観点とか、文書を配つて、また園の文書を持って来たりもしていました。来年度以降は、職員が、坂本こども園の仕事が少し薄くなりますので、職員がより現場に出ていくということを充実させていきます。その中で、施設の面も、現場任せではなくて、こんな面はどうだろうということを相談して、改善すべき事項が生まれてくるかもしれませんので、その点を見ていきたいと思います。

■教育長 ほかによろしいですか。

なければ説明に戻ります。文化スポーツ部の説明をお願いします。

池戸生涯学習スポーツ課長。

[事務局から資料に基づき説明]

■教育長 文化スポーツ部に関わるところで、ご質問、ご意見等ございましたら、

お願いします。

田島委員。

■田島委員 16ページの活力ある地域づくりの推進の(3)運営委員会等による公民館事業の活性化が、継続になっています。ということは、今年度までに何か活性化をされていると思うのですが、どんな成果があったか、どんなことをやったか、教えていただきたいです。

■教育長 池戸生涯学習スポーツ課長。

■生涯学習スポーツ課長 各公民館に運営委員会が30年まではすべてに設置がなかったのですが、現在、福岡公民館、苗木公民館、付知公民館を指定管理に出しており、その関係で各公民館の検証を行い、昨年度も福岡公民館の状況を報告させていただきました。来月、教育委員会で報告予定ですが、各公民館で利用者等が主になって委員会を形成して、公民館の運営についていろいろと意見をいただいて、そこで見直すところは見直します。その後、全体を見る公民館運営審議会という条例設置の審議会があり、そちらでも全体を見て、また意見をいただきます。各公民館に委員会がなかったということで、今、これで設置できましたので、各公民館の活性化について、意見をいただける良い体制ができたと思います。

■教育長 田島委員。

■田島委員 そのように全部の公民館に組織ができたということは、積極的に進めていく意思があるということです。公民館事業は社会教育の一番の基礎になることですので、皆さんが上手に公民館の活性化ができるように積極的に進めていただきたいと思います。

■教育長 そのほかご質問、ご意見ありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 図書館についてです。市民交流プラザの整備は令和5年でしたか。

■教育長 二村図書館長。

■図書館長 今のところ、意見を伺っている計画等についても、令和5年7月を目標に上げています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 あと4年。時間はあるとは思いますが、図書館員はほとんど現場を動いていない方々が、そのまま令和5年の新しいところに勤務されると思います。器はあるけれども、人の思いや意思がしっかりしていないと、バラバラになったりしてうまくいきません。反対に人の意思がしっかりしていれば、3倍にも4倍にも使えるということは分かっていると思います。図書館はとても忙しいとは思いますが、令和5年に向けての実行委員会のようなものでも作って、皆さんの士気を上げてい

くことを考えてはいませんか。

■教育長 二村図書館長。

■図書館長 実行委員会という形にするかどうかは未定ですが、今、パブリックコメントまでは出ています。ムードを盛り上げていくというところは、市全体で見ても、図書館に関係しているところではある程度の検討などもなされているので情報が出たりはしていますが、その辺も少し欠けているかなという認識は持っています。それから、先ほどお話をいただいた図書館内部の職員等々についても、現実の仕事が忙しいこともありますし、新しい図書館に向けては現在の仕事からどう変わっていくかということもこれから考えながら、できれば期待をもって取り組めるような形にしていかなければならないと思っています。こんなふうになってしまうのかということになれば、意識が下がってしまう方になるので、そうならないことを意識しています。盛り上げ方の方法はちょっとまだ具体的にはしていませんが、市の政策推進の担当も関わっていますので、その辺は盛り上げていく方法について、これまでも意識していますし、これからも持っていかなないと、いいものにはならないという認識でやっています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 時間があるようでないと思います。8年前にみえた図書館員も勤務していて、そのときの残念感もあるし、否定されることを一つずつ潰して肯定にもって行って、一人一人がワクワクして、図書館を皆さんに広めるという意識をしっかりとって作っていただければ、力が3倍にも4倍にもなると思います。よろしくお願いします。

■教育長 二村図書館長。

■図書館長 まさにそのとおりです。現場の職員もワクワク感をもってやっていけるようにしていきたいと考えています。

■教育長 ほかにありますか。

林委員。

■林委員 鉱物博物館のところですか。立派な施設の中山道歴史資料館や遠山史料館などがあり、継続ということですが、たとえば中山道歴史資料館は講演会を40回程度開催していて、ひと月に約3回ということになります。遠山史料館は20回程度です。それぞれの施設の令和元年度の入館者が何人いて、令和2年度4月以降、何人を目標にしていますか。同じぐらいでは寂しい気がします。

■教育長 林鉱物博物館長。

■鉱物博物館館長 私は鉱物博物館と東山魁夷心の旅路館の館長ですが、ほかの3館は各館長がおりまして、それぞれ講座を企画しています。目標とする人数につい

ては、細かい数字がないのですが、入館者数は前年度と比べて12月末までで中山道歴史資料館で3万826人、2063人増加です。苗木遠山史料館は4万625人で、1万1798人増加、子ども科学館は1万4097人で、1405人増加です。鉱物博物館は1万4136人で、1899人増加です。旅路館だけが210人ほど減少していますが、現在5132名です。各館ともいろいろなことを考えて、増加させるように努力しています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 何年か前に鉱物博物館が、図書館とコラボしたことがありますが、記憶ありますか。

■教育長 林鉱物博物館長。

■鉱物博物館長 コラボの話は全然分かりませんが、博物館等協議会委員の話では、昔、青年会議所と話したときに、図書館と博物館の委員を同じ人にしてほしいと言われておったことを聞いたので、何らかそういうことがあったのだろうということは承知しています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 図書館に小林館長がおられる頃、鉱物博物館に図書館の本を持って行って、ミニ講演会をやったことがありました。それと、東山魁夷心の旅路館や鉱物博物館でコンサートをやったことがありました。これは新しい来館者を取り入れるための努力だと思います。図書館も鉱物博物館も科学館も、いろいろなところでコラボをしていけば、鉱物博物館だけではない来館者が興味を持ってくれます。そういう積極性はすごく要ることだと思います。それと、出前講座も、依頼されたら行くのではなく「いかがでしょうか」という積極性があるといいのではないかと思います。

■教育長 林鉱物博物館長。

■鉱物博物館長 コンサートは鉱物博物館ではクリスタルコンサートという名称で開催しています。なるべく発信していくという中で言うと、5館をまとめたようなピーアール紙を作ってみたり、「恵那山」という機関紙の市内全戸への回覧をお願いしています。旅路館については、もしよろしければ校長会で、依頼してくださいというお願いしながら、なるべく普及を進めるような形でやっております。

■教育長 田島委員。

■田島委員 各館の方々がコラボしようとか何か新しいことをしようという会議をもっていて、夢を持たせていただきたいと思います。

■教育長 林鉱物博物館長。

■鉱物博物館長 月1回、各館の館長が集まって、そういったことについて話し合

いをもって進めてはおりますが、なかなか進んでいかないのが現実ですので、今後とも努力していきたいと思います。

■教育長 三尾委員。

■三尾委員 今2つに分けて資料についての説明がありましたが、前半も、中津川市の特色、中津川に住んでみたいというようなことが含まれているし、後半も、中津川市はこういう文化を持っているんだな、こういうものが見られるんだなという魅力を感じる説明だったと思います。特に後半については、市外、県外、日本各地、世界の方にとっても分かりやすいものだと思います。私の話になりますが、今年、適応指導教室で鉱物博物館に遠足に行き、竹とんぼを作る実習や、水晶を探す実習をしました。コラボも大事だと思いますが、子どもたちがそこで非常に喜んで満足感を持って帰ってきました。そういう点からいくと、鉱物博物館だから鉱物に特化したイベントも掘り下げていくと、たとえば水晶の数をもう少し多くすると、本当に子どもたちも大人も楽しめるものになると思います。文化ということで本当に期待したいと思います。

■教育長 林鉱物博物館長。

■鉱物博物館長 水晶については、本当に少なくて申し訳ないと思っています。今、友の会と一緒に山中を駆けずり回って、あまり大きいものではだめなので、小さいものなるべく多く入った土砂を一生懸命探しています。今年、1カ所見つけていますので、その土砂は持ってくる予定ですが、それも限りがあります。今後、探しながら楽しんでいただけるようにしていきたいと思っています。

■教育長 ほかによろしいですか。

田島委員。

■田島委員 文化スポーツ部で、図書館にもありますが「人づくりにつながる」「まちづくりに生かす」という言葉が随所に登場するのですが、人づくりとはとても抽象的な言葉だと思います。どんな人を作らなければいけないのか。また、人づくりの理想像、人の理想像、まちの理想像を聞かせていただけるなら聞かせていただきたいです。

■教育長 松井文化スポーツ部次長。

■文化スポーツ部次長 非常に難しい質問だと思います。先ほど三尾委員からも言っていたとおり、中津川には中津川らしい文化も育ってきていますし、まだまだ磨きあげなければいけない部分もあろうかと思っています。また、人づくりという点からは、スポーツで地域を元気にするという動きもあろうかと思っています。理想でどういう人を作っていくということは、しっかりとしたイメージは持っていないのですが、歴史ある中津川を将来にわたって発展させていけるような、どんどん成

長していけるような人づくりを、教育委員会で子どもの時期を育てていただき、大人になったら生涯学習という観点で、いろいろな人を作っていくということだと思います。その中で、公民館が拠点となり、それぞれの地域には地域に合った問題点や課題もあると思いますので、そういった部分を解決していけるような、たとえば公民館の講座をもって、それを受講していただいて、その地域に応じた課題を解決して前へ進んでいっていただけるような人を一人でも多く作っていけたらいいと思っています。

■教育長 田島委員。

■田島委員 人づくりという言葉だけが一人歩きして、皆さんが答弁されるときも、文化スポーツ部は人づくりだ、まちづくりだと答弁されると思います。その基準や理想像、到達点はやはり不明確なものではないような気がします。三尾委員がおっしゃるように、中津川特有・独自ということもあっていいと思います。そのところをもう少し練っていただきたいです。それと、イベントがとてまたたくさんあります。このイベントのできたできないに一喜一憂してしまうところがあると思いますが、文化スポーツ部が行うイベントの根底には、人づくり、まちづくりが一番にあるという意識を皆さんがもって進めていくことが大事だと思います。たとえばリレーマラソンは去年よりたくさん人が来てくれたからオッケーではないと思います。リレーマラソンからどんな人なりまちなりを作っていくヒントがもらえるかとか、成人式も然りです。そういうところを、文化スポーツ部は、自分たちが何をやっているかをしっかりと把握しながら、一人一人が説明できるように、信念をもって進んでいっていただきたいと思います。教育委員会だと、よりよいひとりたち、自立できる子どもたちをつくるという目標があります。そうすると、そこに向かってみんなが行けるとと思います。なかなか文化スポーツ部の人づくり、まちづくりは難しい問題だとは思いますが、ここに掲げた以上は、やはり皆さんで討議してね、中津川はこういう人をつくりたいという理想像をしっかりと持ちながら進めていただかないと、文化スポーツ部の価値はないと思いますので、よろしく願います。

■教育長 ほかによろしいでしょうか。

たくさんのご意見をいただきました。来年度の主要事業にそれを生かしていきたいと思います。今日の資料に文章として反映できるところは反映していく、表し切れないところは、運用の中でその趣旨を踏まえていくということで、来年度の主要事業について、承認ということでよろしいでしょうか。

それでは、議第1号「令和2年度中津川市教育委員会主要事業について」は、原案どおり承認とします。

ここで10分間、休憩とします。

〔 休 憩 〕

■教育長 議事を進めます。議第2号「中津川市スクールバスの管理及び運営に関する規則の一部改正について」提案説明をお願いします。

川合事務局次長。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■教育長 ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

三尾委員。

■三尾委員 中津川市のスクールバスは、全部で何台ありますか。

■教育長 川合事務局次長。

■事務局次長 現在、7台あります。

■教育長 三尾委員。

■三尾委員 福岡にはそのうちの3台でしょうか。

■教育長 川合事務局次長。

■事務局次長 3台です。

■教育長 三尾委員。

■三尾委員 私は、地元は付知ですが、付知北小学校・付知南小学校という名前を今ここで見て、スクールバスがあることを知りびっくりしました。

■教育長 ほかにございますか。

田島委員。

■田島委員 保育園のスクールバスがなくなるということですが、親御さんたちが了承しているということですか。

■教育長 川合事務局次長。

■事務局次長 そのとおりです。

■教育長 田島委員。

■田島委員 一人一人の子どもの一日の動きなり状態を親に報告できるというのが、理由の一つであるというのは非常にいいことだと思いますので、賛成です。

■教育長 川合事務局次長。

■事務局次長 ありがとうございます。

■教育長 ほかにありますか。

小栗委員。

■小栗委員 スクールバスの運行は、外部委託ですか。

■教育長 川合事務局次長。

■事務局次長 7台のスクールバスは運転手をこちらで雇用して、市で運営しています。ただ、やさか地区、山口・川上・坂下地区は、現在、運行している北恵那バスを補助した形だったり、サカガワ観光のバスを委託して運行したり、たとえば、急遽、警報が出た場合などはタクシーを利用する場合があります。やさか地区は市所有のバスの運行はしていません。

■教育長 三尾委員。

■三尾委員 お礼です。スクールバスというと通学のみを使うという印象がありますが、市内の学校が通学に使わない時間帯にスクールバスを利用したいというときには、本当にうまく動かしていただき助かっています。この場を借りてお礼を申し上げます。

■教育長 川合事務局次長。

■事務局次長 その辺のバスの配車については、総合事務所の職員が日夜一生懸命、皆様の要望に応えるべく努力して対応しております。

■教育長 そのほかありますか。

林委員。

■林委員 資料の4ページですが、前の様式と比べて新しい様式では、その他の子どもの状況など気がついたことを書くところが少ないので、もう少し書けるスペースがあった方がいいと思います。運転する人が、今日、回ったところで、細い1行に「ありません」くらいしか書かないかなと。もう少し広い方が「書かなくてはい」という感じですし、細かく気づいてほしいという意図もあるので、もう少しスペースがほしいと思います。

■教育長 川合事務局次長。

■事務局次長 おっしゃるとおりだと思います。運転手とのコミュニケーションは総合事務所の各バスを担当している教育係がおりまして、かなりうまくコミュニケーションをとっていますので、直接の口頭のやりとりでも意見を聞き取るようには努力しています。

■教育長 そのほかよろしいですか。

ないようでしたら、議第2号については、承認ということでよろしいでしょうか。

それでは、議第2号「中津川市スクールバスの管理及び運営に関する規則の一部

改正について」は、原案どおり承認とします。

続きまして、議第3号「中津川市立小中学校管理規則の一部改正について」提案説明をお願いします。

小木曾教育次長。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■教育長 ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 去年1日少なくして、今年もということで、気づいたらすぐに対応して、活用していくという姿勢がとてもいいと思います。賛成します。

■教育長 三尾委員。

■三尾委員 私も賛成です。4月8日までと延ばさずに3月に1日増やした理由がありますか。

■教育長 小木曾教育次長。

■教育次長 4月に1日延ばした影響は、高等学校の入学式に大きくありました。でも、近隣の学校はその変更に対応していただいていますし、他市も同じように1日延ばすという形をとったので、今のところはよかったのですが、さらに1日という非常に大きな弊害が生まれると予想されますので、前にということにしました。

■教育長 三尾委員。

■三尾委員 よく分かりました。本当は4月にもう1日増えるといいと思いました。

■教育長 ほかにご意見ありますか。

ないようでしたら、議第3号については、承認ということでよろしいでしょうか。それでは、議第3号「中津川市立小中学校管理規則の一部改正について」は、原案どおり承認とします。

続きまして、議第4号「中津川市教育委員会の附属機関の委員の委嘱について」提案説明をお願いします。

池戸生涯学習スポーツ課長。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■教育長 林鉦物博物館長。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

■教育長 ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見等がありましたらお願いします。

田島委員。

■田島委員 以前はこういう会議はあて職という言葉でおっしゃる方がありました。私はあて職だから意見はないという答えをされる方が、15年ぐらい前までありました。この頃は、委員になったから自分もしっかり意見を言うという方々が増えてきたように思います。私も教育委員会の附属機関に委員として出席していますが、ある子育て関係の委員会で、団体の代表の方が委員として選ばれて、その会に名前を連ねられました。団体としても職種としても子育てには関係ないような方でした。その方が出てみえて、子育て関係の言葉が飛び交う委員会だったので、まずは背景が分からない、自分の職種や自分の出てきた団体にも関係ない、分からないと自分で判断されました。それ以来ずっとその会には欠席でした。依頼した会議としては非常に大事な団体で、ぜひそこにいていただいて話をその団体にもっていつつなげてほしいという意思があってその団体を呼んだのですが、そこに細かい配慮がなかったです。非常にもったいないことでした。私は、あの方は絶対にこの会議に要る、なぜあなたがこの会に要るかをお話しました。その次からはおいでになりました。自分の役割がやっと分かったということでした。ということが、多分いろいろな会議であるのではないかと思います。どうしても、呼ぶ方と呼ばれる方が、自分の役割が何かとはなかなか聞けないです。それで会議が進んでいってしまう。できれば、委員を呼ぶときには、その人がどうして必要なのかとか、分からない言葉が飛び交うときにはその解説を先にするとか、そういうケアをしていただいて、温かくお迎えいただくと非常にその方が力を発揮できると思います。いろいろな会議を司っている皆さんですので、一言お願いします。

■教育長 ほかにご意見ありますか。

ないようですので、議第4号「中津川市教育委員会の附属機関の委員の委嘱について」は、承認ということでよろしいでしょうか。

それでは、議第4号「中津川市教育委員会の附属機関の委員の委嘱について」は、原案どおり承認とします。

これもちまして、本日の議事はすべて終了しました。委員の皆さん、ありがとうございました。

それでは、事務局から次回の開催日程についてお願いします。

川合事務局次長。

■事務局次長 次回開催日は、令和２年２月２０日、木曜日、１３時３０分から当にぎわいプラザ４－１会議室にて定例会を開催いたします。ご多忙のところ大変恐縮ですが、ご参集いただきますようお願いいたします。

■教育長 次回は、令和２年２月２０日、にぎわいプラザ４－１会議室にて定例会を開催しますので、よろしくお願いいたします。

以上で、令和２年第１回中津川市教育委員会を終了といたします。お疲れ様でした。

〔 閉 会 （午後４時１１分） 〕